

京都大学の太陽将来計画と目指す サイエンス……60分

柴田、北井、上野、野上、永田

ADSで検索できる太陽地上観測論文数、引用回数 の比較。1980以降。(永田ほか調査)

研究所	場所	査読論文(引用回数)	収録(引用回数)
Pic Du Midi	仏	105 (1418)	51(39)
Big Bear	北米	151 (2080)	130(149)
飛騨天文台	日本	39 (370)	33(10)
Huairou	中国	88 (657)	67(1)
THEMIS	Tenerife	102 (506)	101(33)
DOT	LaPalma	16 (116)	16(16)
SOLIS	北米	-/ (-)	20(9)
GREGOR	Tenerife	7 (19)	7(14)
McMath	北米	107 (1354)	170(46)
Meudon	仏	83 (718)	117(113)
SacPeak	北米	285 (4960)	322(370)
VTT	Tenerife	67 (814)	41(41)
SST	LaPalma	38 (357)	54(50)
フレア望遠鏡	日本	28 (88)	--
乗鞍コロナ	日本	19 (123)	--

飛騨天文台から輩出した博士

- 教育機関としての意義は高く、以下の博士を輩出している。(DST以後19人)
- 北井、キム、ダーニ、バフティアル、二階堂、西川、一本、小路、吉村、石井、森本、高津、浅井、成影、神尾、(末松、秋岡、花岡、武田)

講演内容

- 京大理附属天文台の将来計画:
 - 柴田(15分+5分)
- DST将来計画と高時間分解能撮像観測:
 - 北井(10分+5分)
- 赤外偏光観測と彩層磁場観測の推進:
 - 上野(5分+3分)
- 高精度偏光観測でせまる光球磁場のダイナミクス:
 - 永田(5分+3分)
- 高時間分解能観測による恒星フレア研究:
 - 野上(5分+3分)

2006年5月22日(月)、6月5日(月)、12日(月)
6月16日(金)、6月19日(月)

京大理附属天文台の将来計画

柴田一成(台長、教授)

北井礼三郎(助教授)

上野悟、野上大作、永田伸一(助手)